

## 今日の話題



図書館で電子書籍の貸し出しが好調だ。札幌市中央図書館ではコロナ流行前に年間4万7千回だったが、この1年で7万5千回に急増した。

コロナ禍の休館中も利用でき、足を運ぶことなくネット上で借りられる手軽さが受け入れられた。

特に電子絵本が人気で、年間2千回から4千回に

倍増。所蔵は348点で、中には朗

読音声や音楽が付く作品もあり、読み聞かせの代わりにもなる。

道内ゆかりの作品を発掘し図書館で提供しようと、北海道デジタル出版推進協会では今、デジタル絵本コンテストを開き募集中だ。

協会は「おぼけのマル」シリーズの中西出版（札幌）など道内中小11社が8年前に結成。「デジタル化で地方出版社が埋没してし

まう」という危機感から共同制作などを進め全国的に注目された。現在は19個人・団体が参加し、計約900点の電子書籍を出版。事務局は「子どもたちにも読者層を広げたい」と意気込む。

道内在住の中学生以上ならだれでも応募できる。デジタル制作だけでなく、紙に書いた作品でも可能という。パソコン操作が苦手な身にはうれしい配

慮と言える。

テーマは道内の

自然や文化の魅力を伝えること。締め切りは12月20日（当日消印有効）で、受賞6作品は道内各地の電子図書館に寄贈される。

詳細は協会ホームページか070・8560・1664（平日

午前10時～午後5時）へ。札幌市各図書館にも募集チラシがある。秋の夜長に電子絵本を描いてみるのも悪くない。（磯田 佳孝）